

長寿社会を考える京都フォーラム「21世紀をどう生きるか」

上記のフォーラムが京都府主催、厚生省、総務庁、国土庁後援で京都市左京区宝池、国立京都国際会館にて平成元年5月30日に開催された。このフォーラムは2部からなり、セッション1「家族の形態はこう変わる」はコーディネーター：庭田範秋（慶応義塾大学教授）、パネリスト：湯沢雍彦（お茶の水女子大学教授）、高原須美子（経済評論家）、浅岡美恵（弁護士）、セッション2「結婚・夫婦関係はこう変わる」はコーディネーター：河野稠果（厚生省人口問題研究所長）、パネリスト：山根常男（駒沢大学教授）、袖井孝子（お茶の水女子大学助教授）、落合恵美子（同志社女子大学講師）から構成された。なおこのほかに伊東光晴京都大学教授、菅原真理子内閣総理大臣官房参事官の講演もそれぞれ各セッションの前に行われた。

（河野稠果記）

国際人口学会家族計画・出生力比較分析委員会主催セミナー 「出生力決定要因としての家族計画プログラムの役割」

国際人口学会（IUSSP）家族計画・出生力比較分析委員会（the Committee on the Comparative Analysis of Family Planning and Fertility）は、本年6月26～30日の5日間、チュニジアのチュニスにおいて「出生力決定要因としての家族計画プログラムの役割（The Role of Family Planning Programmes as a Fertility Determinant）に関するセミナー」を開催した。本研究所からは河野稠果所長（IUSSP理事）と阿藤誠人口政策研究部長（同委員会委員）が参加した。

同委員会は1988～1990年について4つのセミナーを企画し、既に1988年1月に米国のバルティモアで「再生産の生物医学的、人口学的決定要因に関するセミナー」、1988年3月にタイのバンコックで「アジアにおける出生力転換：多様性と変化に関するセミナー」を開催してきた。今回のセミナーは同委員会の3つ目の企画にあたる。最後は1990年にアルゼンチンのブエノスアイレスで「ラテン・アメリカの出生力転換に関するセミナー」が予定されている。

本セミナーは、近年の開発途上諸国の出生力転換に際して、家族計画プログラムがどのような役割を果たしてきたかを具体例に則して評価・検討することが主な狙いであった。開発途上諸国における家族計画プログラムに関する研究プロジェクトに長年携わっているPopulation Councilなど国際援助機関、アフリカからの参加者が多かったことと、提出された論文が33本の多数にのぼったことが本セミナーの大きな特徴であった。

開発途上諸国の出生力転換には、社会経済開発にともなう子供に対する需要の低下ならびに出生抑制需要の増大という需要要因（demand factor）の変化と、政府の人口抑制政策に基づく家族計画プログラムの遂行という供給要因（supply factor）の変化の二つが関係していると言われてきたが、後者の果たす役割は必ずしも明確にされてきた訳ではなかった。本セミナーでは、(1) 出生力低下に際して家族計画プログラムが果たした役割についての全般的評価、(2) 需要要因と供給要因の相互関連をめぐり理論的問題、(3) 家族計画サービスの質、プログラム努力と避妊実行率、出生力との関係、(4) プログラムの効果測定をめぐり問題、(5) 低開発水準の下におけるプログラム成功への障害と対応などの問題が論じられた。

理論的問題として興味を覚えたのは、家族計画手段の供給がたんに既知の需要に応えるという役割の他に、潜在需要（latent demand）を掘り起こすあるいは需要そのものを生み出す役割があるのではないかという点であり、イースタリン・モデルあるいはリー＝プラタオ・モデルの前提となっている需要・供給独立仮定に疑問が呈されたことである。この問題に絡んで、バングラデシュのマトラブ（Matlab）におけるPopulation Councilの家族計画普及プロジェクトにおいて、著しく低い開発水準の下でも避妊実行率をある水準まで引き上げることに成功した経験がしばしば話題となった。

国レベルにおける人口政策の劇的な効果という点では、中国とインドネシアに関するいくつかの論文が興味をひいた。両国とも、比較的低い開発水準の下で強力な人口抑制政策を効果的に遂行することにより、出生率の大幅な削減に成功したケースである。この成功の条件を考える場合に、国家と社会構造の各々の性格と両者の相互

関連に留意する必要性が説かれたが、家族計画プログラムの成果という点に於いては技術的あるいは組織的な問題に限定しがちな分析視角を押し広げることが認識させた点で意義があった。

両国とは対照的に、サハラ以南のアフリカ諸国、南アジア、アラブ・イスラム諸国は、それぞれ家族計画の普及を妨げる制度的、文化的制約条件にしばられており、相変わらず高い出生率が続いている。とくにアフリカの場合これらの制約が著しいと思われるが、この地域のパイロットプロジェクト、調査研究にたずさわっている研究者、ならびにアフリカの研究者の間では、部分的ではあれ社会経済変化とともに出生行動の変化のみられるグループもあるとの指摘が多く、悲観論を戒める空気が強かった。ただし、個人的には、多くの国で年率3%前後の人口増加率が続いており、時間との競争という点で考えると中国並の強力な人口抑制策の採用が必要ではないかとの印象をもった。

今回のセミナーでは人工妊娠中絶の役割がまったくふれられなかった。参加者の間では家族計画プログラムと避妊普及プログラムは同義語として扱われている印象があったが、国によっては政策的用語としての家族計画に中絶を含む場合もある。また出生力の急激な抑制に成功した国（中国、台湾、韓国、戦後の日本など）では中絶の availability が高かったケースが多い。さらに中絶が非合法の諸国（ラテン・アメリカ、アフリカの諸国）であっても、実際には中絶が多用されているケースは少なくない。出生力低下における家族計画プログラムの役割という大きなテーマを論ずるとすれば、理論的には明示的であれ暗示的であれ中絶を家族計画の一部として含めておいた方が有効であるように思えた。この点では、米国政府の反中絶政策が研究のパスベクティブに何かの影響を与えているようにも感じられた。

本セミナーの議題論文名（報告者）は以下の通りである。

Opening Session

Session 1 : *Introduction*

"The role of family planning programmes as a fertility determinant." (R. Freedman and D. Freedman)

"Issues in relating fertility demand and programme supply functions." (T. Paul Schultz)

"The effect of public policy on the efficacy of family planning programmes." (D. Warwick)

Session 2 : *Theoretical issues in the interpretation of programme effects.*

"A framework for characterizing the role of programmes as a fertility determinant." (G. Simmons)

"Theoretical perspectives on the intersection of the supply of services and demand for fertility regulation." (W. Robinson and J. Cleland)

"Programmes as a fertility determinant : Proximate operational determinants of fertility regulation behaviour." (R. Simmons and J. Phillips)

"A framework for assisting the role of programmes in influencing contraceptive choice, continuity, and use dynamic." (R. Bulatao)

Session 3 : *The role of service quality in the efficacy of programmes*

"Quality of services, program efforts and fertility reduction." (Anrudh Jain, Judith Bruce, and Sushil Kumar)

"Relations of contraceptive choice to continuity of use." (Iqbal Shah)

"The relationship between service quality and demographic outcome in four rural Chinese counties." (Joan Kaufman, Zhang Zhirong, Qiao Xinjian, and Zhang Yang)

Session 4 : *Case studies on the determinants of success in unfavourable institutional settings.*

"Weak demand or inappropriate supply : Programme Efforts in Indigenous Guatemala." (S. Rosenhouse)

"Organizational implications of inadequate demand : Some case materials from India." (A. McIntosh)

"An analytical overview of successful and unsuccessful projects in Kenya." (John Oucho and D. Ayiemba)

Session 5 : *Programme Effort as a Fertility Determinant*

"Birth planning and fertility decline in rural Ghana." (S. Greenhalgh)

"Programme effort and contraceptive use in India." (Pravin Visaria, Abusaleh Shariff, and Leela Visaria)

"Study of programme effort and performance of family planning services in Thailand." (Aphichat Chamratrithirong)

Session 6 : *Methodological issues in assessing the role of programme intensity as a fertility determinant.*

"Fertility regulation and community programmes in Egypt : The application of multi-level analysis to assessing the impact of the Egyptian family planning programme." (Hossain Abdul Aziz Syed)

"Service proximity as a determinant of contraceptive behaviour : Evidence from Cross-National Studies of Survey Data." (A. O. Tsui and Luis Hernando Ochoa)

"Methods for measuring programme impact : The research record." (J. Ross and C. Lloyd)

"New estimates of potential demand for family planning." (C. Westoff and Lorenzo Moreno)

Session 7 : *Societal constraints to family planning programme*

"The societal constraints to the organization of effective family planning service delivery in Sub-Saharan Africa." (Odile Frank)

"Institutional constraints to family planning in the Arab East." (Mohammed Faour)

"Institutional constraints on the provision of family planning services in Latin America." (Susheela Singh and Diego Berrio)

"Constraints on Supply and Demand for Family Planning : Evidence from rural Bangladesh." (M. Koenig and R. Simmons)

Session 8 : *The programmatic response to societal constraints demand : Strategies for enhancing the role of programmes as a fertility determinant.*

"The potential contribution of incentives and disincentives in enhancing family planning programme effectiveness." (J. Cleland)

"The role of community participation in improving the performance of family planning programmes." (Ian Askew)

"The utilization of traditional village institutions in Indonesia : Is the BKKAN organizational experience relevant to family planning programmes elsewhere ?" (Djamalluddin Ancok)

"Modernization of Reproductive Behaviour in Kenya : Societal Determinants and Programme Implications." (Wariara Mbugua)

Session 9 : *Developing programme impact : The experience of organizational research in family planning programmes.*

"An overview of efforts to improve programme performance in Latin America and the Caribbean :Lessons learned from Operations Research." (J. Townsend and J. Foreit)

"Developing public sector programmes : Strategies for introducing programmatic change in India." (R. Maru and J. Satia)

"Operations research in family planning in Africa." (D. Lauro and M. Catherine Mater-nowska)

"The determinants of impact and utilization of fertility research on public policy : China and Mexico." (Axel Mundigo)

Session 10 : *Overview and Synthesis*

(阿藤 誠記)

第3次日中社会学会訪中団報告

3月23日～4月6日の15日間、北京・上海にて、社会学・人口についての研究交流を行った。主な日程および主な会見者は以下の通り。

- 3月24日 ・北京市社会学会会長・全国人民代表大会常務委員会副委員長・雷潔瓊，なお陸学芸・楊雅彬の中国社会科学院社会学研究所の所長・副所長も同席
 - ・中国老齡問題全国委員会 王伝斌，洪国棟，陶立群，王詢，蕭振禹，賈福水
- 25日 ・中国人民大学労働人事学院社会工作と社会保障研究所長・侯文若
 - ・中国社会科学院人口研究所 田雪原所長，沙吉才副所長
- 27日 ・朝陽区十八里店郷・朝陽区人民政府
 - ・体制改革研究所社会研究室 白南風主任，孟繁華，楊曉，王奋宇
- 28日 ・中国社会科学院社会学研究所
 - 福武直文庫除幕式，名誉教授授賞式
 - 何建章前所長，陸学芸所長らほぼ全所員
- 29日 ・北京大学社会学系 袁方，周爾流副所長
 - ・中国社会学会・北京市社会学会 雷潔瓊，吳承毅，袁方，鄭杭生ら
 - ・費孝通中国社会学会会長
- 31日 ・上海市青浦県，農村調査
- 4月1日 ・上海社会科学院社会学研究所 丁水木所長
 - ・上海大学文学院社会学系 袁緝輝
- 2日 ・上海市計画生育委員会 王建民，李浩萍
 - ・上海市老齡問題委員会 張志昂，洪旦平，袁緝輝
- 3日 ・盧湾区麗園新村にて「包護組」調査
 - ・上海市人口情報センター 鄭依柳主任
 - ・上海社会科学院人口研究所 張開敏所長
 - ・上海婦女連合会調査室 吳韻純，章韻純，吳良蓉，彭劍明，汪敏
- 4日 ・復旦大学人口研究所 桂世祚，陳先淮，潘紀一，鄭桂珍，張志鴻，彭希哲
 - ・楊浦区四平街道にて計画出産工作，老年大学四平分校